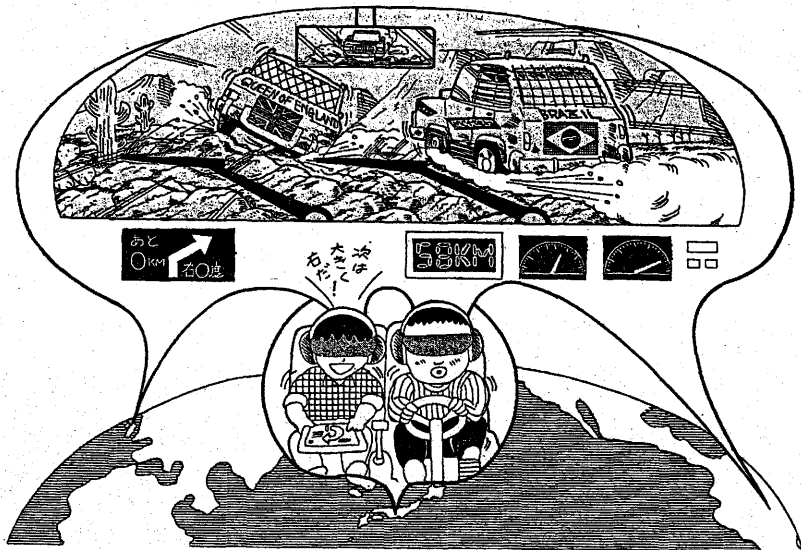


女房1人でてんでこまいになっていたところだ。

世界が相手だ頑張れ馬場・高田組



広がる子供の世界

54 しばらくすると、息子と同じクラスの高田君が買物にきた。高田君の家は共働きで、高田君が学校から帰って来ると、「高田家の伝言板」にお母さんの笑顔と買物リストが入っていたそうだ。高田君のお母さんは買い忘れを思い出したのであるが、高田君の家の地域は配達を済ませたばかりで、バーチャルスーパーでの買物では間に合わないの、おつかいに行くようにとのお願いだったそうである。彼は「おつかいはめんどうだなあ」と言っているが、どうせ我が家の息子と、はやり「バーチャルラリー・世界大会予選」で遊んでいくはずである。「バーチャルラリー・世界大会予選」とは、ネットゲーム会社が主催している参加型ゲームで、ドライバーはうちの息子で、ナビゲーターは高田君だ。世界のいろいろな場所のラリーを楽しむことができることと、世界中の誰でもエントリーできるのが売り物である。彼らは実際の車には乗れないが、このゲームの中では10万人中のランキング550位まで上がったそうである。最初の頃は、がけから落ちたり他の車に衝突して重傷を負うなどリタイアの連続だった

が、今では学校で1番のドライビングテクニックを誇っている。今度は、確か世界チャンピオンを決める大会の11~15歳部門に参加すると言って張り切っている。家庭用のテレビゲームがはやり始めた初期のころから、日本人は魅力的なゲームソフトを作ってきたが、このバーチャルラリーも日本のソフト会社が開発したものとのことである。

55 室内で遊ぶゲームばかりをやっていては困りものだが、今の息子のもう一つの興味はレスリングだ。息子の中学校のクラブ活動は、野球やサッカーなどの伝統的なスポーツが主で、息子も1年生のときに試しに参加してみたようだが、先輩後輩の関係がいやで、結局学校のクラブには参加しなかった。ただ、何かスポーツをしたいという気はあったので、地域情報室で捜し当てたジュニア・レスリング・クラブに参加している。個人競技であり、いろいろな学校の子供が集まっているので、窮屈なさがみもなく、のびのびとやっているようである。来月の競技会では、団体戦の代表に選ばれたので見に行くのが楽しみだ。レスリング部のある中学校は都内でも珍しいので、息子が自分に合ったスポーツクラブを見つけれられたのは地域情報室のおかげだ。

温かく住みやすい街づくり

56 宅配の途中で中野さんのところに行った時に、ボランティアをやりたいと言っていた。生まれ育った町について、高齢化の進行や近隣のつきあいの希薄化を感じる中で、世話好きが高じて、高齢者介護サービス、公園の清掃などのボランティア活動のコーディネータをやることになった。自分は宅配サービスで地域の実態を知っており、また地域の人に知られているだけに、コーディネータとして適役だと思う。地域情報室の電子掲示板を使うことによりボランティアの募集や町内イベントの紹介が簡単にできるし、平日は忙しい人が多いので、電子掲示板を使って調整作業を行うことは効率的である。また自分の場合、実際に顔を合わせることも多いので、フェイストゥフェイスの情報も得ることができて地域の情報の集積地という感じである。中野さんは、デモソフトの製作が得意だと言っていたので、電子掲示板の募集広告を作ってもらったらどうだろうか。バーチャルスーパーの広告も、頼めば安く作ってくれるかもしれない。

57 ネットワークは距離の制約をなくし、世界中で自由なバーチャルコミュニティを生み出している。一方、地域コミュニティでは、ともすれば人間関係が希薄になる恐れもある。自分のような役割をする人がいて、温かい、人と人の触れ合う街、活気の

ある街として、この街が生きつづけていくのだろうと思う。都心に勤めるサラリーマンだとなかなかこうはいかないが、最近は自宅で仕事をする人も増えてきた。中野さんも興味を持っているみたいだが、ネットワークを活用することで積極的に参加してくれる人が増えれば、自分も少しは楽になるし、もっと温かく住みやすい街になることが期待できる。

中野信子のある日

モーニングティーと聞く新聞

58 今朝は早く目が覚めたため、朝の紅茶を楽しみながら、とりあえず電子新聞を読むことにした。昨晩は遅くまで針仕事をしていたので、何となく目が疲れている。最近眼が見えにくくなってきたため、文字を拡大して読んだりしているが、今日は新聞を「聞く」モードにして、横になったまま聞くことにした。あらかじめ登録してある興味のある事柄の順に記事を並べてあるので、知りたい記事を簡単に見つけ出すことができる。新聞を紙で読みたいときもあるが、そのときには自分で印刷すればよい。「聞く」新聞は、目の不自由な人が世の中の流れに取り残されないために役立っているとのことだが、歳とともに目が衰えつつある我が身にとっても、大変に便利なものである。

59 私が愛用しているのは、自分の話す音声で操作するキーボードレス端末で、5年前に先立った夫が勤めていた工場で作られた最新型の製品である。同年代の人と比べると、私は情報関連機器をうまく使っている方だと思うが、これは家でも工場でもパソコンをさわっていた夫の影響だろう。私の言葉にはこの地方のなまりがあるが、うれしいことにこの端末に換えてから言うことをよくわかってくれるようになった。

60 電子新聞は、このように興味のある記事を自動的に選びだしてくれるという機能があり、また、従来型の新聞のような、1面には重要な記事を見出しを付けて並べ、内容ごとに外交面、社会面などに整理してあるのも一覧性という点で捨てがたい魅力がある。電子新聞は、どちらの要望にも応える形になっている。報道の速さという点では、今でも有線テレビのニュースには及ばないが、一つの事件について背景の分析や関連資料の提示など、立体感のある編集構成がされる電子新聞ならではの分析は、テレビのニュースでは代えがたいものがある。電子新聞の写真には、テレビの画面のように動く画像や音声も組み込まれており、新聞社各社は分析力と魅力ある紙面の構成でしのぎを削っている。

健康管理で安心なくらし

61 朝食をとると健康相談の予約時間となった。心臓病の専門医の目黒先生にテレビ電話をつないでもらった。ここ何日か体調はやや疲れ気味で、朝早く目が覚め睡眠不足が続いていることを報告し、血圧や心拍数などのデータを送信したところ、異常が

出ているとのことであった。そこで、近所の医院できちんとした検診を受けるように勧められたので、散歩がてら早速行ってみた。専門医による電話相談は、一般の公共サービスとして誰でも受けられるが、専門医の数が需要に応じきれないため、予約をとるのがなかなか大変だ。そのため、私は、地域情報室を通じた医療相談サービスを利用している。

62 自宅の端末からは、地域情報室を通じて町内の施設利用情報、福祉機器情報、シルバーサービス情報などが提供されているが、便利なのは救急医療案内である。案内画面を立ち上げて、症状を選択していくと担当医がテレビ電話の窓口に現れる仕組みで、急いで病院に行く必要があるか、様子を見るかを判断し、緊急の場合は救急医療機関を紹介してくれる。また、私が使っている端末には、画面に赤字で「緊急」及び「病院」と表示されている。「緊急」に触れると自動的に消防署に連絡が行き、救急車が来るようになっている。「病院」に触れると病院の担当医か当直医に連絡が入るようになっている。突然の心臓発作で倒れたら画面操作は間に合わないが、心電図モニタを携帯しているので、発作が起きた時には病院に自動的に連絡が行くことになっている。昔に比べ1人暮らしでも安心感がある。

63 医院の近くまで来たところで、どうも鍵をちゃんと閉めたかどうか不安になった。公衆端末で我が家のセキュリティシステムを呼んでみると、玄関と窓の鍵は全部閉まっているが、勝手口の鍵を閉め忘れていたことが表示された。情二が親孝行のつもりで付けてくれたシステムだが、これがなければ家まで戻らなければならないところだった。勝手口の鍵を閉めてひと安心。こうやって、どこからでもセキュリティシステムを呼び出せるようになったのは、機械の接続方法などが世界的に標準化されたおかげらしい。

64 近所の医院で診察を受けたが、診療データに一部判断に迷う点があったようで、データを専門医のいる病院に転送し、アドバイスをもらうこととなった。診断の結果、特に差し迫った異常は無いということだったので、ほっとして自宅に戻った。家庭での簡便な遠隔医療機器が進歩したとはいえ、いざというときには病院で医師に直接診てもらうのが一番正確で安心だ。

いつでも好きな番組を

65 帰宅後、毎週欠かさず見ている連続ドラマを見た。昔は、外出のときにはピアノのタイマーをセットしてから出掛けたものであるが、今では、番組の解禁時間以降は

いつでも見ることができる番組オンディマンドのおかげで、時間を気にせず好きな番組を見ることができるようになっている。この番組は、午前10時解禁の1時間番組なので、午前11時以降はいつでも番組を呼び出すことができる。放送方式には、CMありモードとCMなしモードの2つがあり、前者は無料で後者は有料である。CMは邪魔という人もいようであるが、いい気分転換であるとともに、新製品のことを知ることのできるのも、大抵は通信費の節約も兼ねてCMありモードで見ている。いつもは、10時ぴったりにディスプレイの前にすわっているのだが、今日は昼食を食べながら見るようになった。

66 番組オンディマンドを使えば、このシステムが実用化されて以降の番組は、好きなときに呼び出すことができ、実用化以前の番組でも、リクエストの多いものは少しずつライブラリに追加されている。私が若い頃見た人気番組が登録されているのを見つけると、懐かしくてついつい見てしまう。

知的情報も津々浦々まで

67 中学校の教員を定年で退職した後は、パッチワークや母に教わった郷土料理の腕前を、今の若い奥さん方に教えるため、テレビ会議で週1回講習会を開いている。歳をとると、正直言って公民館の集会場などに、天気が悪くても毎週必ず出向かなければならないのは億劫であるが、通信ネットワークを通じた講習会なら自宅でできるし、今ではそれが生きがいの一つになっている。また、通信俳句会やバーチャル生け花会なども定期的に行われているようであり、今度、時間を見つけて試しに参加してみるつもりである。

68 私の趣味は、昔から続けて来たパッチワークで、今までも何回かネットワーク展覧会に作品を出展してきた。そのかいもあって、広く全国や海外の作品にも刺激を受け、最近では上位に入賞するまで腕が上がってきた。電子新聞の書評で知ったのだが、有名なパッチワークデザイナーの本が出たようである。新刊情報で調べてみると良さそうな内容なので買うことにした。本は、紙の本と電子本とが選択できる。都会に住む情二は、本は場所を取るからと電子本を買うことが多いようであるが、私はやはりあの本の質感と印刷の美しさが捨てがたいので紙の本を買うことが多い。

69 昔は、本のタイトルだけ見て注文し、実物を見てがっかりすることがあったが、今の新刊情報は、概要やあらすじに加え最初の数ページを端末から立ち読みすることができるので、失敗することは少なくなった。私の住む小さな地方都市では、以前は

専門書を買うのが困難であり、知的情報の格差が地域格差の一因になっているといわれていたが、今では少なくとも本や公開情報の入手については、大都市との格差はなくなったといってよい。そのせいか、地方の大学にも都会暮らしを嫌った優秀な先生や学生が来るようになり、私の町の大学も特色のある教育で学生を集めるようになっている。他大学の有名教授の講義も遠隔で受けられるし、リモート塾なんていうものもあるそうだ。大都市と地方の教育格差は、まったくなくなったわけではないが、以前に比べはるかに小さくなった気がする。

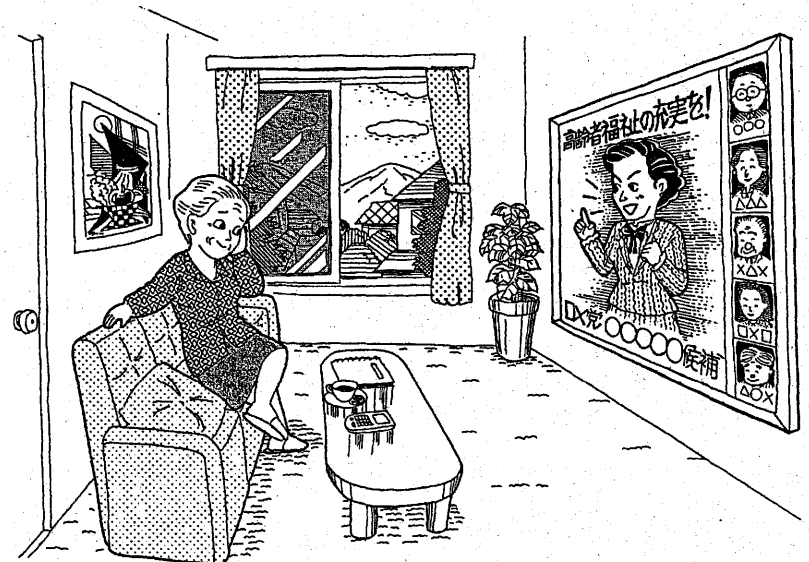
70 私が教員をしていたときには、学校が終わると子供たちは塾に行き、遊ぶひまもないということが問題になっていた。遊んでから塾に行くとか暗くなってからの外出となり、危険だということで放課後すぐに塾に行っていたのだが、リモート塾は自宅にいながら出席できるので、明るいうちは遊んだりクラブ活動をして、塾に出席するのなら家に帰ってからというのが普通になっている。塾も自分が不得意なことを、自分の理解度に合わせて選べるようになっており、教育用ソフトウェアの進歩もあり、学校の授業だけではどうしても対応しきれない部分をうまく補ってくれている。また、生徒が興味を持っていることを自分自身で深く調べることもできるので、相対性理論を理解している中学生とか、5か国語を話せる高校生などのように、詰め込みではなく、子供の個性をいかして伸ばしていくために、情報通信は役立っているようだ。

離れていても困らない

71 最近では、選挙が近いため電子メールボックスには、選挙公報が送られてきている。以前は、選挙公報は紙で配付されていたものが、地域情報室への加入者が増えるにつれて、電子メールで送るのが主になっている。もちろん、希望者には紙の広報を送ってくれるが、私は電子メールで十分である。各候補者は、自分自身のホームページを地域情報室内に作っており、候補者の考えなどを知りたければホームページにアクセスすればよいし、質問を電子メールで出すこともできる。私は、高齢者の福祉についてまじめに考えてくれる人を選ぶつもりである。投票は、端末から電子投票を行うことができるようになってきている。以前は、選挙の日が雨になると服をびしょぬれにしながらでかけたり、雪の日には行くのをやめたりしていたが、今はその心配はまったくない。当日どこかに旅行にでかけていても、外出先からの投票が可能である。もちろん、投票所まで出向いて投票することもできるが、電子投票を選ぶ人の方が増えてきているようである。

72 電子メールが来ているので見ると息子の情二からであった。今度の誕生日に、プレゼントをしたいが何がよいかという内容であった。とりあえず毎日無事に暮らしているし、特にこれといって欲しいものもない。テレビ電話ばかりではなくて、たまには本物の顔を見せてくれるのが一番のプレゼントだと返事を出した。

今度の選挙は誰に投票？



73 そういえば、去年は孫の報介がとても素敵な誕生日のメッセージをくれたのだった。自作の動画に音楽を付けたもので、市販の電子メッセージのように洗練されてはいないものの心がこもっていた。自分が中学校に勤めていたころには、パソコンクラブに所属している生徒が四苦八苦しながら画像を合成していたので、通江さんに報介は天才プログラマーではないかと話したが、「今はメッセージを作るためのソフトウェアがいろいろあって、簡単に作れるようになってきているのよ」とのことで、がっかりしたことを思い出した。

74 そんなことを思い出したこともあって、東京にいる報介の顔が見たくなり、テレビ電話で話をした。話を終えると、少し興奮したためか突然動悸が始めた。画面に触り、病院を呼び出して遠隔診断をしてもらったところ、特に緊急の治療は必要ない

ことがわかってひと安心した。

75 私のような出不精には、バーチャルトラベルは楽しい娯楽であるが、体のことを考えると、たまには本物の緑や風のかおりを楽しんで気分転換を図ることも必要だろう。端末から「グリーンツーリスト情報」にアクセスしたところ、隣村の農家民宿が空いていることがわかった。誕生日のプレゼントはこれにしておおうと決め、情二に皆で一緒に行けるかどうか聞いてみた。多分大丈夫だとのことなので、後のことは情二にまかせることにした。帰りには1泊すると言っているので、いつものようにカラオケ大会になるだろう。もちろん情二の家でもカラオケオンディマンドのサービスは受けられるが、家が密集した東京では近所迷惑になるようだ。久しぶりに報介に会うのを楽しみにしながら床についた。

参 考 資 料 (II)

経済審議会部会・小委員会報告

1. 自由で活力ある経済部会報告
2. 豊かで安心できる暮らし部会報告
3. 地球社会と我が国の役割部会報告
4. 次代を担う人材小委員会報告
5. 高度情報通信社会小委員会報告

内閣総理大臣談話

経済審議会会長談話